

# 令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 総合的な学習の時間

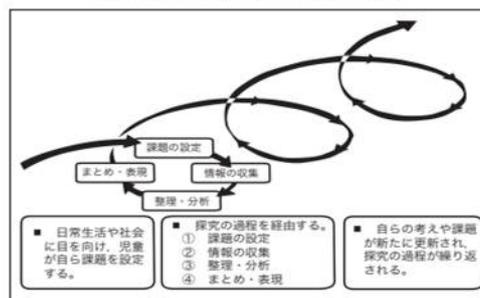
## 改善の重点

- ① 目指す資質・能力を明確にした上で、探究的な学習の過程が発展的に繰り返されるようにするため、特に「課題の設定」を工夫して指導計画を作成すること。
- ② 明確にした資質・能力から具体的な評価規準を設定し、学習状況を見取ること。

### 1 設定理由

①では、目指す資質・能力の明確化と指導計画について挙げている。総合的な学習の時間は、各学校において目標を定め、その実現を目指さなければならない。この目標は、各学校が取組を通して、どのような児童を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育成するのか等を明確にする必要がある。また、資質・能力の育成に向けては、探究的な学習の過程を充実させることが重要であり、その過程において、異なる多様な他者と協働的な学習、教科等横断的・総合的な学習、児童の興味・関心に基づく学習など、創意工夫を生かした学習活動を行うことが求められる。探究的な学習の過程においては、児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。そのためには、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。特に課題を設定する段階では、対象に直接触れる体験活動が重要であり、そのことが、その後の息の長い探究的な学習活動の原動力となる。これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりするなど、学習対象との関わり方や出会わせ方などを、教師が工夫する必要がある。探究的な学習の過程が、右図のように発展的に繰り返されるようにするため、児童が自ら課題意識をもつ授業展開が重要である。

探究的な学習における児童の学習の姿



②では、学習評価と見取りについて挙げている。各学校で定めた育成を目指す資質・能力を踏まえて設定した評価規準を、学習活動における具体的な児童の姿として描き出し、授業において、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握し評価することが考えられる。その際には、具体的な児童の姿を見取るに相応しい評価規準を設定し、評価方法や評価場面を適切に位置付ける必要がある。また、評価を学習活動の終末だけではなく、事前や途中で適切に位置付け、学習過程においても個人として育まれるよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、その評価を通して児童自身が自分のよい点や進歩の状況に気付くようにすることが大切である。

### 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 各学校において作成されている全体計画を踏まえ、指導計画では、「課題の設定」の場面における、児童と学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫すること。
- ② 各学校において作成されている全体計画を踏まえ、評価規準を作成するとともに、各観点に即して期待される児童の姿を想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」国立教育政策研究所 令和2年3月
- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省 令和3年3月